



問 大莞保育園施設跡地の利用計画は

答 町有財産等活用検討委員会で検討



池上丁一先生の壁画

問 大莞保育園移転後の利用計画は。

町長 現在白紙の状況である。今後、町有財産等活用検討委員会で検討する。

問 園舎東側壁には、池上丁一先生の壁画がある。この壁画を保存しながら、いろいろな形で施設として改修できないか。

町長 建物が非常に老朽化していることから、かなりの費用が発生すると思われる。慎重に検討したい。

問 施設跡地有効活用ということで、地域の有識者を含めての町有財産等活用検討委員会での検討を。

町長 何らかの形で知恵を出しながら活用方法を皆さんと一緒に考えていきたい。

問 文化財専門委員会では、文化財の保存及び活用、また、農具・民具についても適正管理、保存活用に努めているが、肝心な保存・展示・活用する場所がないことから、郷土歴史資料館の設置はできないか。

町長 伝統的な農具・民具は健康福祉棟南倉庫及び石丸山公園に、絵画や書などの芸術品は図書情報センターのギャラリーに展示している。その他大木町に残る民具等の資料冊子を編集作成し、25年1月発刊配布した。

問 三八松出身の彫刻家北原大莞先生の生家を郷土歴史資料館施設として設置できたらという要望もあるが。

町長 大莞地区の活性化に資するひとつのアイデアとして承知している。現在図書館の閉架書庫の整備、総合体育館の改修などの課題を抱えている。これらの課題に優先的に取り組む。



北原大莞先生の生家

問 歴史資料館の必要性、設置の考え方は。

教育長 資料館ありきではなく、文化財関係の収集、考案方、保存の方法等をもっと広く、総合的な検討が必要である。

問 資料館には、民具、農具等だけではなく、大木町の文化人の作品等を一堂に会して展示発表する施設として、国・県等の補助を受けられないか。

生涯学習課長 文化庁の補助メニューはないと考えているが、歴史資料館の必要性等とあわせて今後調査を行っていく。

問 最近カラスによる食害の他、多くの被害が発生している。猟友会にお願いしている駆除回数を増やすことは出来ないか。

産業振興課長 効果的な駆除が実施できるよう、実施時期や回数も含め、猟友会と相談の上で検討する。

問 その他の対策は考えられないか。

産業振興課長 生態系の中で上位に位置する、タカ・ミミズクなどの猛禽類を使つての威嚇などの方法もあると聞く。関係団体・関係各位の意見を聞き、情報収集に取組み対策を考えていく。

